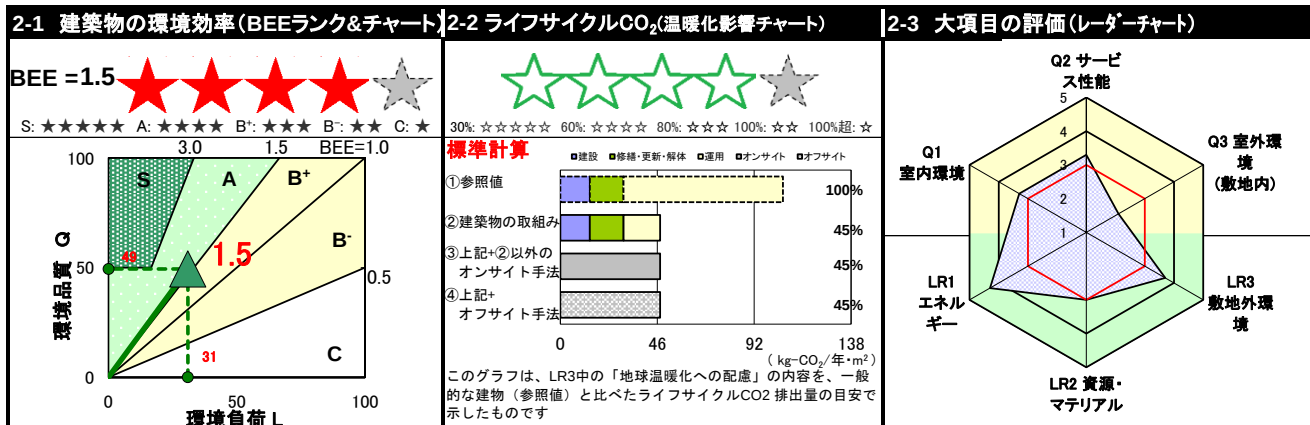


CASBEE® 名古屋

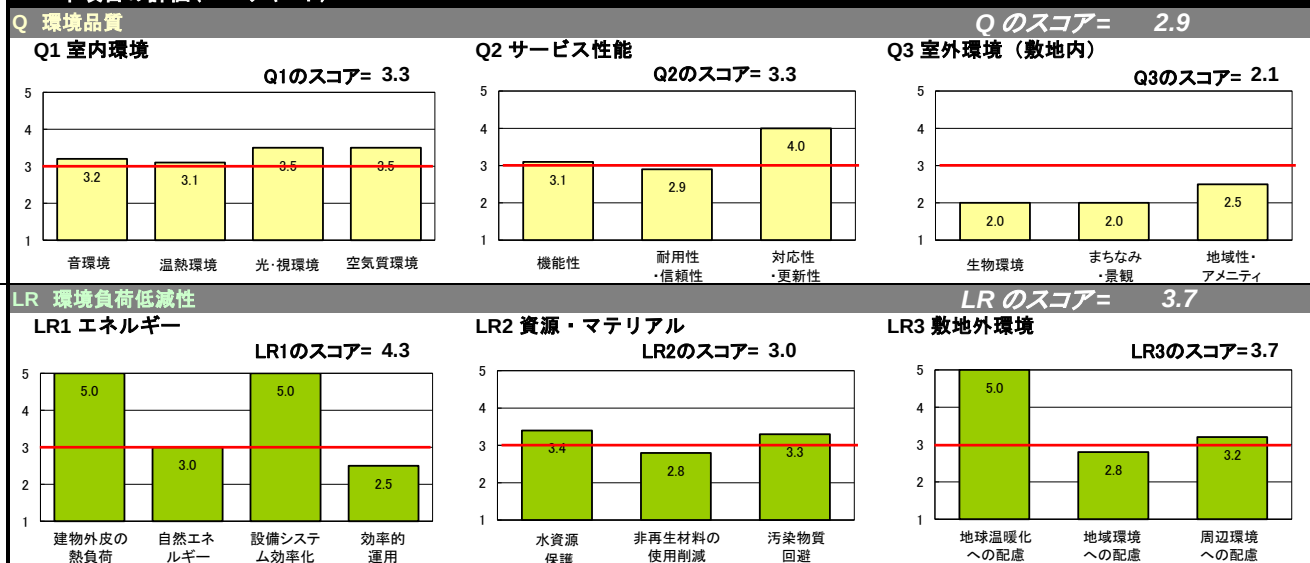
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年改訂、名古屋市の建築物の環境性能評価マニュアル) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	信金中央金庫名古屋支店	階数	地上4階、地下0階
建設地	愛知県名古屋市中区葵1丁目2601番,2602番	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年7月16日
敷地面積	926 m ²	作成者	
建築面積	719 m ²	確認日	2025年7月16日
延床面積	2,844 m ²	確認者	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
・人と環境に配慮したサステナブルな新オフィス ・人材交流および健康を促進する新オフィス	
Q1 室内環境 ・遮音性能に配慮し、執務空間の外装開口部および間仕切壁の仕様を選定した。 ・温熱性能に配慮し、外部と干渉する部位の断熱材を強化した。	Q2 サービス性能 ・明快な平面計画やゆとりを持った階高設定とし、設備等の更新性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内) ・屋上に太陽光パネルを設置し、自然エネルギーを利用している。 ・省エネおよび創エネにより、NearlyZEBを見据えている。	
LR1 エネルギー ・自動水栓などにより節水に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・建物高さを抑え、周辺への日照阻害や圧迫感を与えないよう配慮している。
	LR3 敷地外環境 ・建物高さを抑え、周辺への日照阻害や圧迫感を与えないよう配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

信金中央金庫名古屋支店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	5.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.2
	
2. 自然共生	評価点 = 1.9
	
3. 循環型社会	評価点 = 3.0
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。